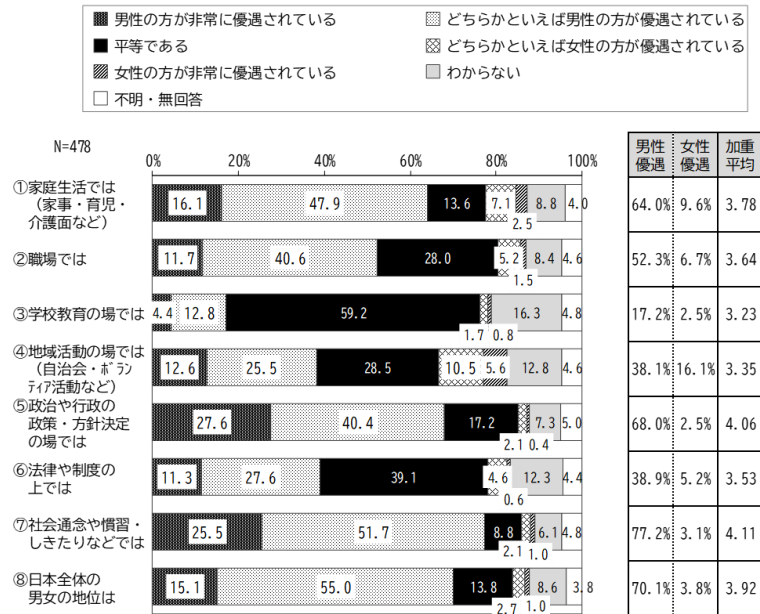


アンケート調査結果から見る京丹後市の現状

1. 男女平等に関する意識

家庭生活や政治・行政の意思決定の場、社会通念・慣習、日本全体の男女の地位について、「男性が優遇されている」と感じる人がいずれも60%以上と多くなっています。一方で、「女(男)だから」といった言い方・考え方や亭主関白の男性、「男は仕事・女は家庭」といった考え方には、約80%が抵抗を感じています。

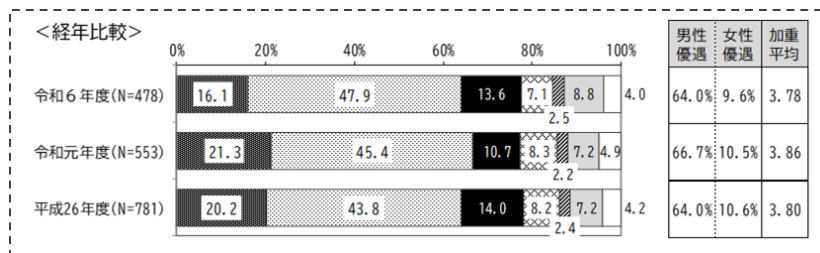
■男女平等の現状（単数回答）



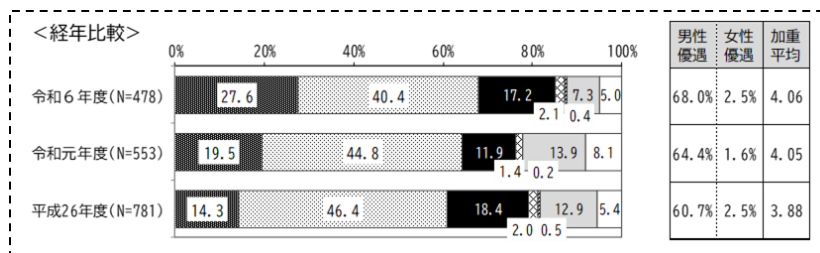
*加重平均= (選択肢1×5点+選択肢2×4点+選択肢3×3点+選択肢4×2点+選択肢5×1点) / (選択肢6と不明・無回答を除く回答件数)
[加重平均は5~1点で表され、5点に近いほど『男性優遇』、1点に近いほど『女性優遇』を示す]

【参考】経年比較（抜粋）

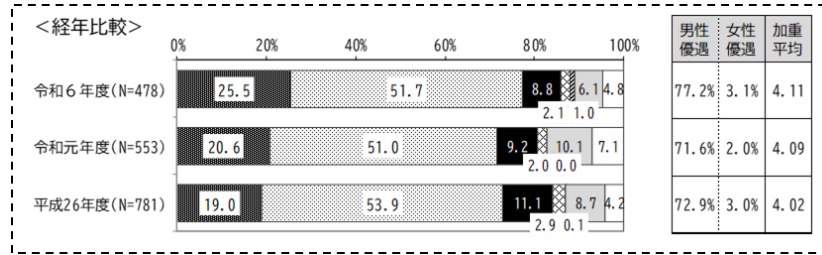
①家庭生活では（家事・育児・介護面など）



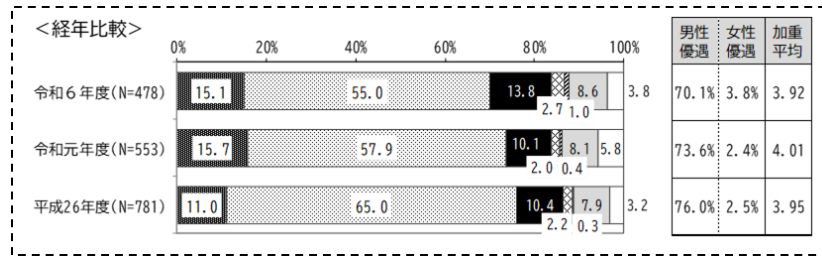
⑤政治や行政の政策・方針決定の場では



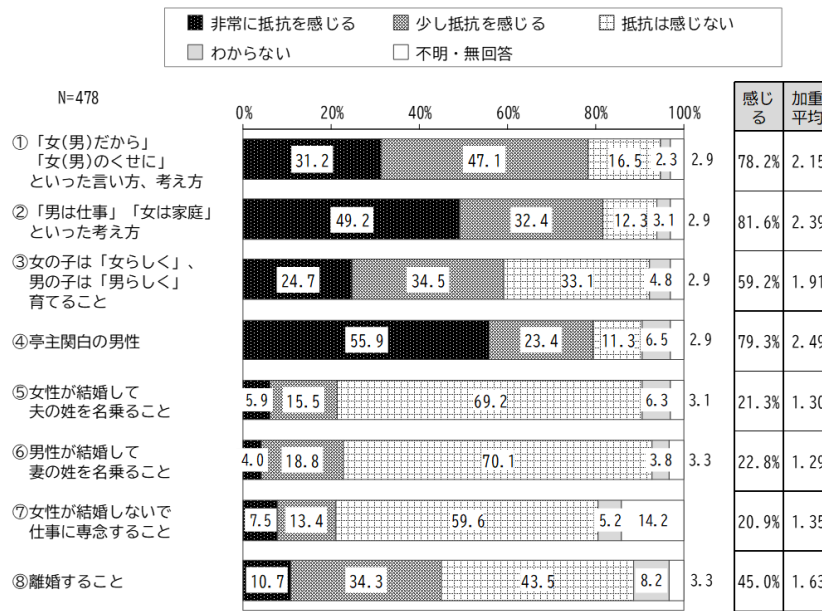
⑦社会通念や慣習・しきたりなどでは



⑧日本全体の男女の地位は



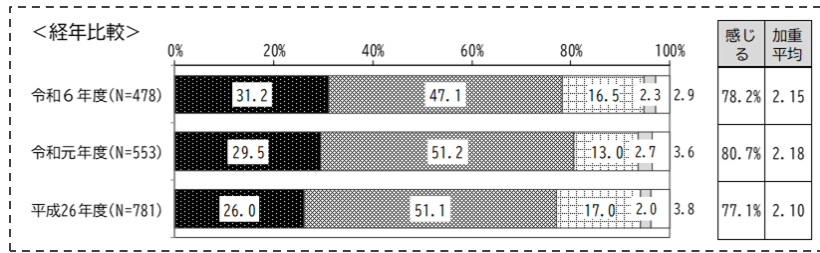
■男女平等の意識（抵抗感）



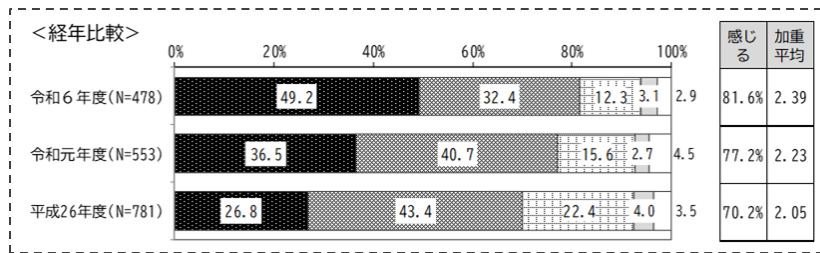
*加重平均=(選択肢1×3点+選択肢2×2点+選択肢3×1点)/(選択肢4と不明・無回答を除く回答件数)
 [加重平均は3~1点で表され、3点に近いほど『抵抗感が高い』、1点に近いほど『抵抗感が低い』を示す]

【参考】経年比較（抜粋）

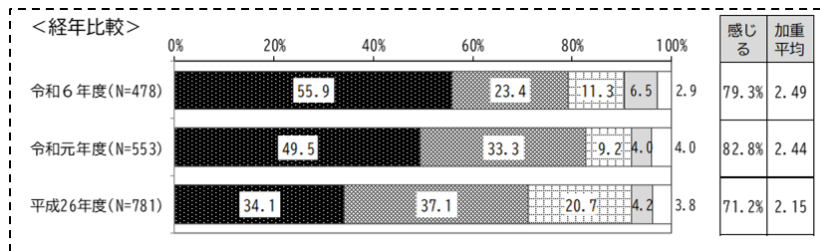
①「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方



②「男は仕事」「女は家庭」といった考え方



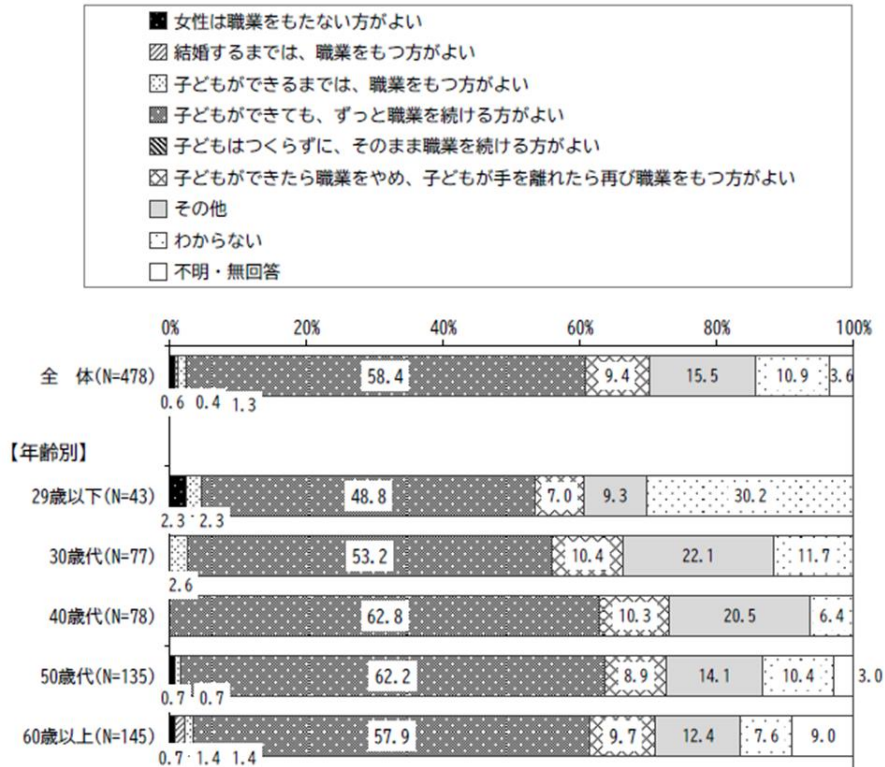
④亭主関白の男性



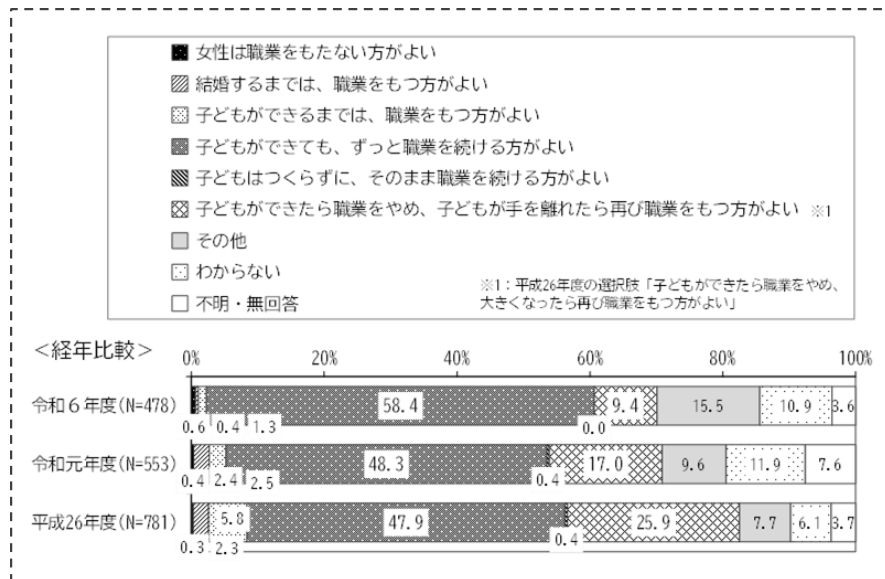
2. 女性の就労

全体では「子どもができて職業を続ける方がよい」が58.4%で最多で、全世代でも同様です。女性の管理職は「意欲と能力のある女性はどんどん管理職に就いたほうがよい」が74.1%で最多で、指導的立場への参画を高める手法は「男性の意識改革」が47.9%と最も多くなっています。

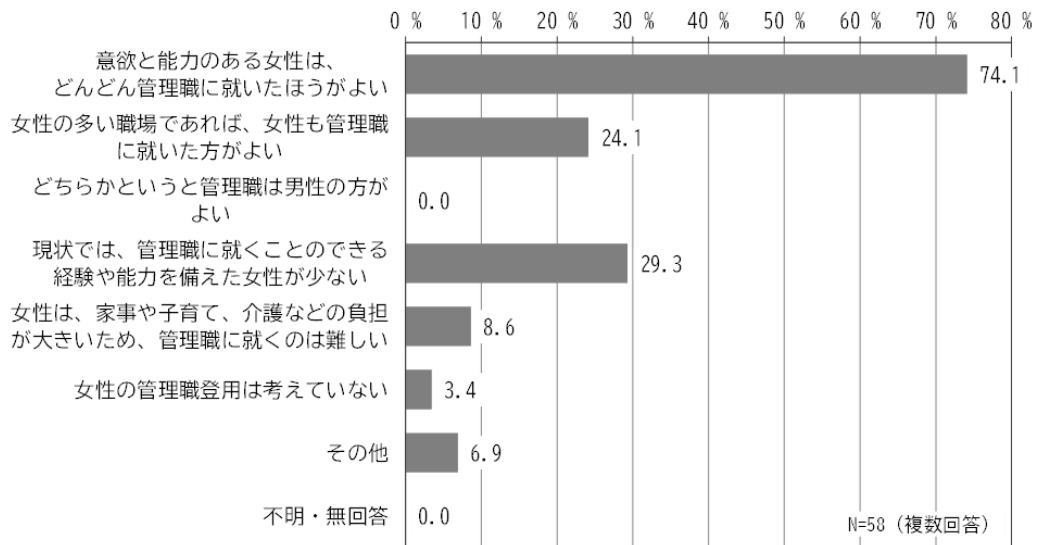
■女性が職業を持つことへの意識（単数回答）



【参考】経年比較



■女性の活用・登用について（複数回答）



【参考】経年比較

(%) 複数回答 太字：上位3項目 (太字：最上位)	経年比較		
	令和6年度	令和元年度	平成26年度
回答事業所数	N=58	N=101	N=207
意欲と能力のある女性は、 どんどん管理職に就いたほうがよい	74.1	61.4	44.0
女性の多い職場であれば、女性も管理職 に就いた方がよい	24.1	19.8	17.9
どちらかという管理職は男性の方がよ い	0.0	4.0	6.3
現状では、管理職に就くことのできる経 験や能力を備えた女性が少ない	29.3	23.8	30.0
女性は、家事や子育て、介護などの負担 が大きいため、管理職に就くのは難しい	8.6	9.9	15.0
女性の管理職登用は考えていない	3.4	11.9	12.1
その他	6.9	4.0	7.7
不明・無回答	0.0	5.9	9.7

※平成26年度の割合は、回答事業所数(不明・無回答を含む)を母数として再集計した結果

■女性の指導的立場への参画の手法（複数回答）

(%) 複数回答 太字：上位2項目 (太字：最上位)	全体 N=478	男女別	
		男性 N=239	女性 N=237
回答者数			
女性の教育や研修機会を充実する	24.1	18.0	30.4
女性の意識改革を進める	40.2	44.4	35.9
男性の意識改革を進める	47.9	43.9	51.9
一定の割合で女性管理職の登用を進める	22.8	23.8	21.5
プロジェクト・チームなどを発足する	6.7	7.1	6.3
すべての仕事を男女がともに担い合うようにする	41.4	46.9	36.3
その他	6.5	6.7	6.3
不明・無回答	2.5	0.8	4.2

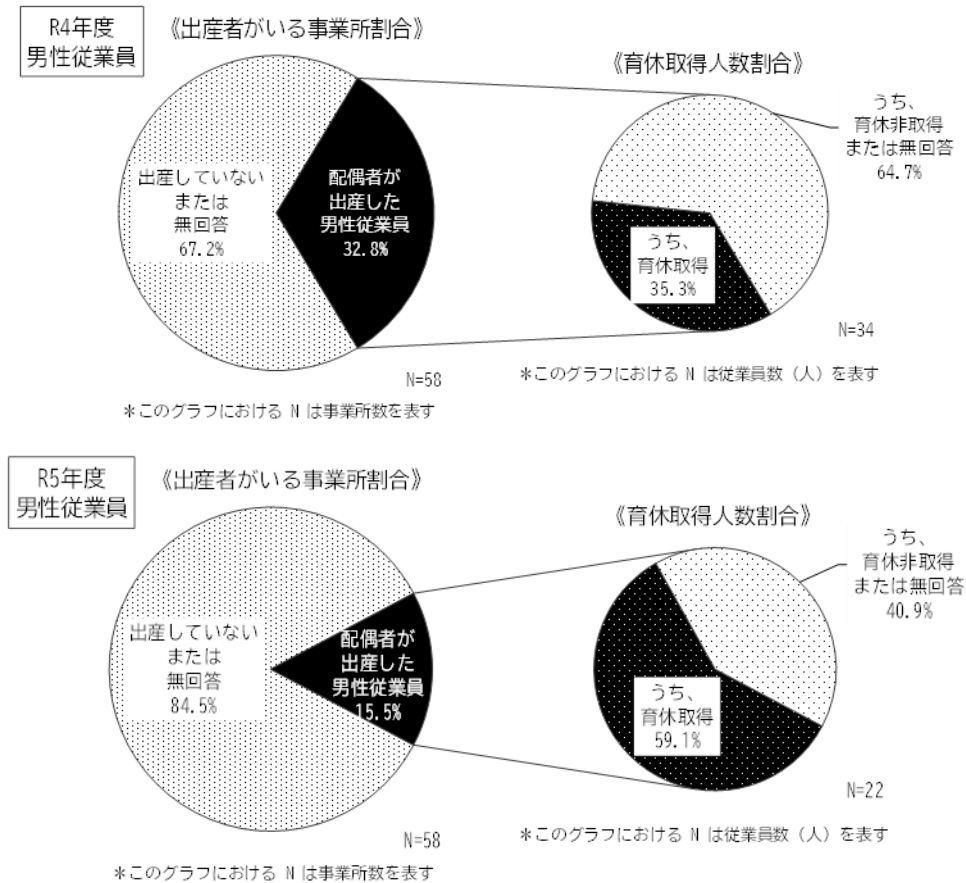
【参考】経年比較

(%) 複数回答 太字：上位2項目 (太字：最上位)	経年比較		
	令和6年度 N=478	令和元年度 N=553	平成26年度 N=781
回答者数			
女性の教育や研修機会を充実する	24.1	23.3	25.2
女性の意識改革を進める	40.2	28.6	32.9
男性の意識改革を進める	47.9	39.4	40.6
一定の割合で女性管理職の登用を進める	22.8	20.4	16.3
プロジェクト・チームなどを発足する	6.7	8.5	7.2
すべての仕事を男女がともに担い合うようにする	41.4	40.7	37.4
その他	6.5	5.1	5.5
不明・無回答	2.5	7.4	5.4

3. 男性の育児休業取得

育児休業取得状況について、令和4年度中の男性の育児休業取得率は35.3%、令和5年度中の男性の育児休業取得率は59.1%となっており、令和4年度よりも取得率が高くなっています。

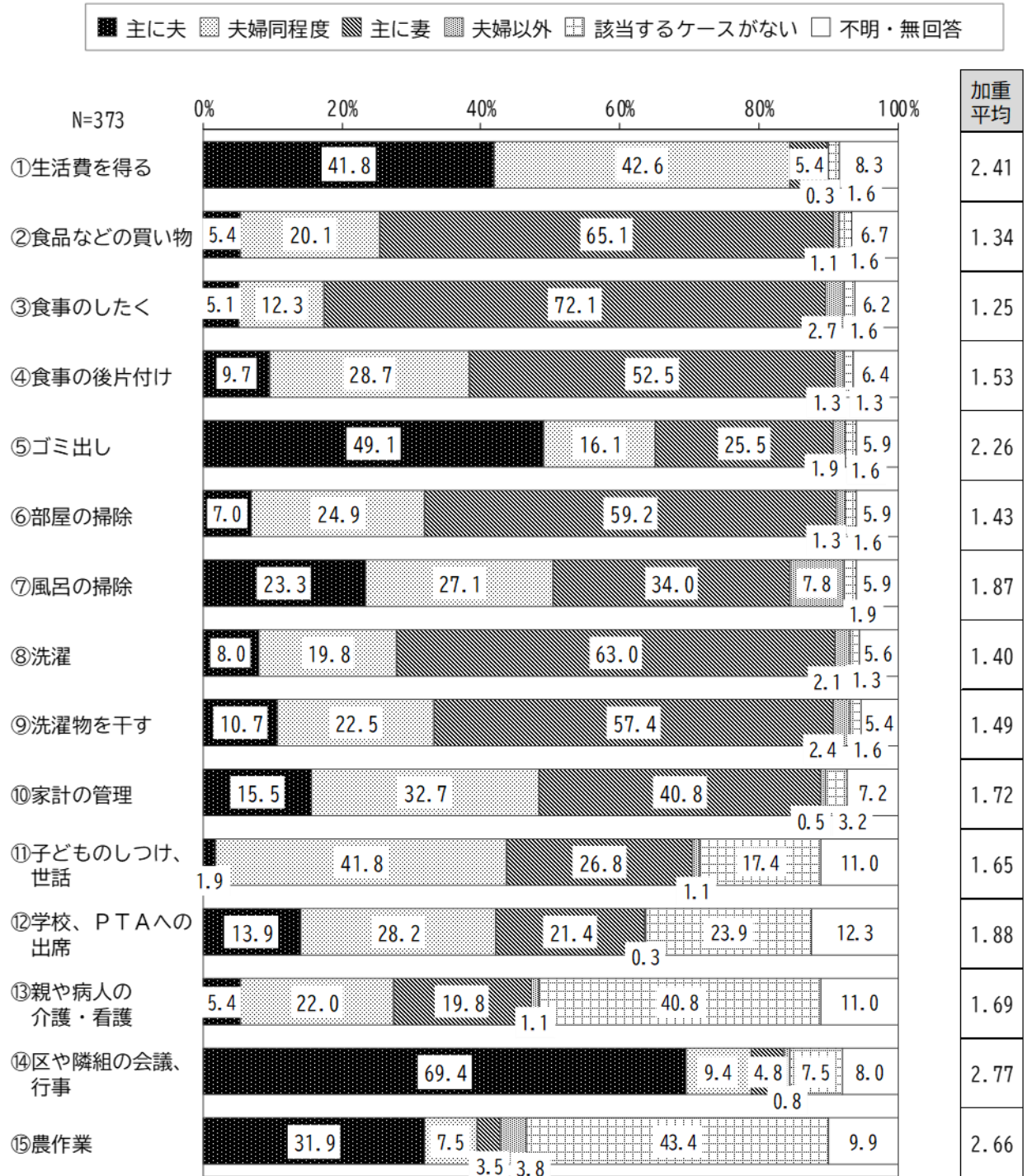
■育児休業の取得状況（令和4年度、令和5年度）



4. 家庭における役割分担

食品などの買い物・食事のしたく・洗濯といった日常的な家事は「主に妻」が6割以上で、女性の負担が大きい一方、生活費を得ることやゴミ出し、区や隣組の会議・行事、農作業は男性が担う傾向があります。

■【結婚されている方】夫婦の仕事・家事分担（単数回答）



*加重平均=(選択肢1×3点+選択肢2×2点+選択肢3×1点) / (選択肢4・選択肢5と不明・無回答を除く回答件数)
 [加重平均は3~1点で表され、3点に近いほど『夫の負担度が高い』、1点に近いほど『妻の負担度が高い』を示す]

【参考】経年比較（加重平均）

①生活費を得る			②食品などの買い物			③食事のしたく			⑤ゴミ出し		
令和6年度	令和元年度	平成26年度	令和6年度	令和元年度	平成26年度	令和6年度	令和元年度	平成26年度	令和6年度	令和元年度	平成26年度
2.41	2.39	2.48	1.34	1.16	1.26	1.25	1.10	1.13	2.26	1.79	1.74

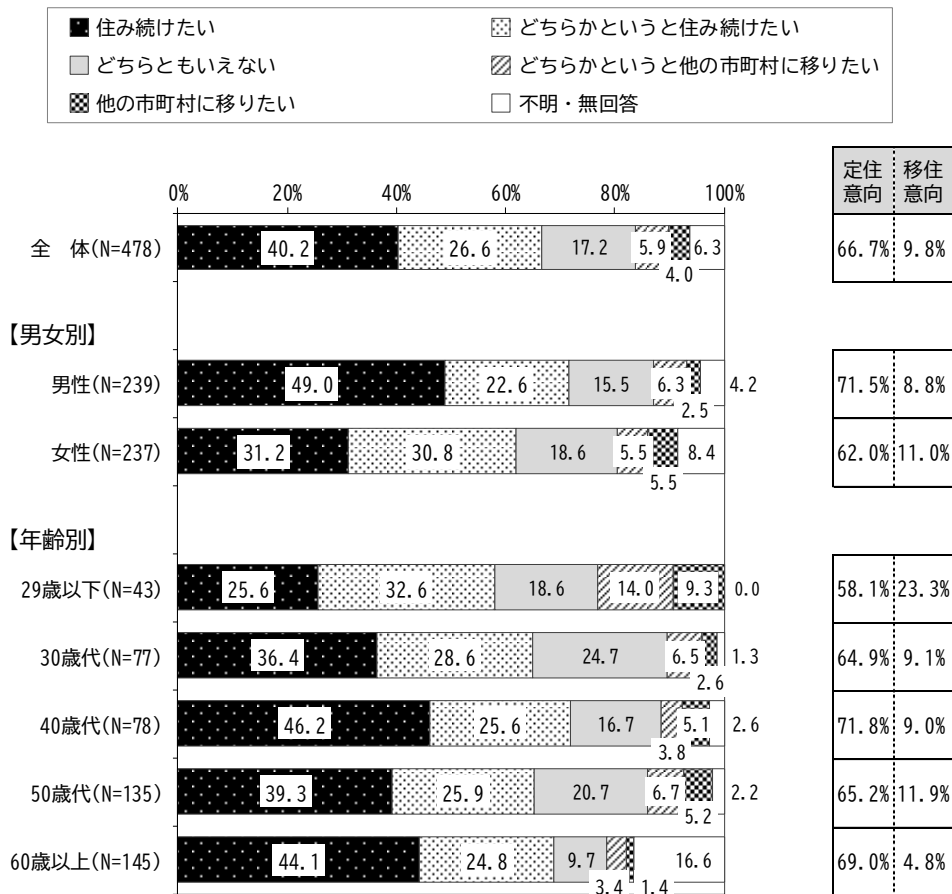
⑧洗濯			⑭区や隣組の会議、行事			⑮農作業		
令和6年度	令和元年度	平成26年度	令和6年度	令和元年度	平成26年度	令和6年度	令和元年度	平成26年度
1.40	1.19	1.17	2.77	2.53	2.64	2.66	2.49	2.60

*加重平均=（選択肢1×3点+選択肢2×2点+選択肢3×1点）/（選択肢4・選択肢5と不明・無回答を除く回答件数）
 [加重平均は3~1点で表され、3点に近いほど『夫の分担度が高い』、1点に近いほど『妻の分担度が高い』を示す]

5. 定住意向

全体では「住み続けたい」40.2%で、「どちらかというに住み続けたい」26.6%と合わせた定住意向は66.7%です。女性の定住意向は62.0%と男性の71.5%より低く、年齢別では40代が71.8%と定住意向が最も高い一方、29歳以下は他の市町村移りたいとした考えが他世代より高めです。

■今後の定住意向（単数回答）



6. 暴力や性犯罪

配偶者等からのDVは、女性の経験割合が男性より高く、約4.2~6%となっています。また、DVを「経験した」、「身近に経験者がいる」と回答した人のDVへの対処については、「何もなかったが」が21%と最多で、次いで「友人や近所の人に相談した」が12.3%、「夫婦（恋人同士）で話し合った」「家族や親族などに相談した」「公的な機関に相談した」「自分ひとりで考え、解決しようとした」が8.6%でした。なお、「どこに相談したらよいかかわからず、相談しなかった」人は7.4%となっています。

■配偶者からのDVの経験・認知度（複数回答）

(%) 複数回答 太字：上位2項目 (太字：最上位)	全体 N=478	男女別	
		男性 N=239	女性 N=237
回答者数	N=478	N=239	N=237
自分が暴力を受けたことがある	4.0	2.1	5.9
自分が暴力をふるったことがある	2.7	3.8	1.7
身近に経験した人がいる	8.4	5.9	11.0
知識として知っている	69.2	69.9	68.4
言葉は聞いたことがある	12.3	15.1	9.7
言葉も聞いたことがない	2.5	4.2	0.8
不明・無回答	6.3	4.6	8.0

【参考】経年比較

(%) 複数回答 太字：上位2項目 (太字：最上位)	経年比較		
	令和6年度 N=478	令和元年度 N=553	平成26年度 N=781
回答者数	N=478	N=553	N=781
自分が暴力を受けたことがある	4.0	10.5	6.0
自分が暴力をふるったことがある	2.7	2.2	3.7
身近に経験した人がいる	8.4	11.9	8.7
知識として知っている	69.2	63.3	66.2
言葉は聞いたことがある	12.3	25.9	28.4
言葉も聞いたことがない	2.5	2.5	3.2
不明・無回答	6.3	10.1	9.0

■ 恋人からのデート DV の経験・認知度

(%) 複数回答 太字：上位2項目 (太字：最上位)	全体 N=478	男女別	
		男性 N=239	女性 N=237
回答者数			
自分が暴力を受けたことがある	2.7	0.8	4.2
自分が暴力をふるったことがある	0.8	1.3	0.4
身近に経験した人がいる	5.0	3.3	6.8
知識として知っている	58.8	56.9	60.8
言葉は聞いたことがある	13.6	17.2	10.1
言葉も聞いたことがない	11.3	13.8	8.9
不明・無回答	10.9	8.8	13.1

【参考】経年比較

(%) 複数回答 太字：上位2項目 (太字：最上位)	経年比較		
	令和6年度 N=478	令和元年度 N=553	平成26年度 N=781
回答者数			
自分が暴力を受けたことがある	2.7	1.6	1.9
自分が暴力をふるったことがある	0.8	0.4	0.9
身近に経験した人がいる	5.0	4.3	4.6
知識として知っている	58.8	53.5	49.3
言葉は聞いたことがある	13.6	20.3	19.0
言葉も聞いたことがない	11.3	8.5	13.3
不明・無回答	10.9	23.1	22.5

■【配偶者等からの暴力経験者または身近に経験者がいる方】DVへの対処(複数回答)

(%) 複数回答 太字：上位3項目 (太字：最上位) 回答者数	全体 N=81	男女別	
		男性 N=30	女性 N=50
夫婦（恋人同士）で話しあった	8.6	10.0	8.0
家族や親族などに相談した	8.6	0.0	14.0
友人や近所の人に相談した	12.3	0.0	18.0
公的な機関に相談した	8.6	3.3	12.0
民間の機関に相談した	1.2	0.0	2.0
医療機関に相談した	6.2	3.3	8.0
どこに相談したらよいかわからず、誰にも相談しなかった	7.4	6.7	8.0
相手が怖かったので、誰にも相談しなかった	3.7	0.0	6.0
自分ひとりで考え、解決しようとした	8.6	13.3	4.0
何もしなかった	21.0	20.0	20.0
その他	3.7	3.3	4.0
不明・無回答	33.3	50.0	24.0

*上位3項目は「その他」、不明・無回答を除いた上位を表す

【参考】経年比較

(%) 複数回答 太字：上位3項目 (太字：最上位) 回答者数	経年比較		
	令和6年度 N=81	令和元年度 N=121	平成26年度 N=147
夫婦（恋人同士）で話しあった	8.6	7.4	10.9
家族や親族などに相談した	8.6	23.1	17.7
友人や近所の人に相談した	12.3	15.7	13.6
公的な機関に相談した	8.6	10.7	8.8
民間の機関に相談した	1.2	4.1	1.4
医療機関に相談した	6.2	2.5	1.4
どこに相談したらよいかわからず、誰にも相談しなかった	7.4	5.0	13.6
相手が怖かったので、誰にも相談しなかった	3.7	3.3	8.2
自分ひとりで考え、解決しようとした	8.6	11.6	15.6
何もしなかった	21.0	18.2	22.4
その他	3.7	7.4	10.2
不明・無回答	33.3	21.5	10.9

*上位3項目は「その他」、不明・無回答を除いた上位を表す